

慢性腰痛に対する鍼療法に関する研究

慢性腰痛患者の心理社会的要因が鍼治療に与える影響

治療効果についての探索的検討とロジスティック回帰による多変量解析

保健科学部・准教授

近藤 宏

キーワード

大学院修士課程、慢性腰痛、心理社会的要因、鍼療法、治療効果、ロジスティック回帰分析

研究概要

研究目的：

慢性腰痛患者を対象に、心理社会的要因が鍼治療の効果に与える影響について、研究1では直後効果からの分析を、研究2においては4週間の継続した治療の効果からの分析を、それぞれ探索的に行った。また、研究2においては、4週間の継続した鍼治療の効果と直後効果との関係性について後方視的な検討を行った。

研究結果：

研究1の結果、鍼治療の直後効果に影響を与える要因として、痛みに対する破局的思考、治療に対する肯定的な印象、同居人数が抽出された。

研究2の結果、治療4週経過後の治療効果に影響を与える要因として、痛みに対する破局的思考が抽出された。また、疼痛強度においては、直後効果が観察された症例は、より良好な治療経過をたどる可能性が示唆された。

鍼灸臨床において長期的な継続治療が必要な慢性腰痛患者に携わる治療者は、治療の早期から認知の歪みなどの心理社会的要因に着目し、心身両面から適切な評価と判断を行い治療にあたることが重要であると結論できる。

参考文献：

- ・松田 えりか, 近藤 宏, 木下 裕光, 砂山 顕大, 石崎 直人, 鮎澤 聡. 慢性腰痛患者の心理社会的要因が鍼治療効果に及ぼす影響 直後効果の判定結果による探索的解析とロジスティック回帰分析. 日本温泉気候物理医学会雑誌. 202; 83(3): 122-130.
- ・松田 えりか, 近藤 宏, 木下 裕光, 砂山 顕大, 石崎 直人, 鮎澤 聡. 慢性腰痛患者における心理社会的要因と4週間後の鍼治療効果との関係(第2報) 反復測定データの解析とともに. 全日本鍼灸学会雑誌. 2021; 71(2): 95-106.

心理社会的疼痛

侵害受容性疼痛

神経障害性疼痛

引用：慢性疼痛ガイドライン2018,
図1-C痛みのモデル図(一部改変)



応用例・用途

- ・本研究の成果は、鍼の効果と恐怖回避思考などの心理的要因や経済状況、社会的地位などの社会的項目との関係性についてさらに検討を進めることが可能となる。
- ・本研究の成果を基盤に、多施設共同研究などを大規模研究の推進を目指すことに応用できる。



国立大学法人 筑波技術大学 学術・研究委員会

【問い合わせ先】

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15 大学戦略課 企画戦略係

TEL：029-858-9339 FAX：029-858-9312 E-MAIL：kenkyo@ad.tsukuba-tech.ac.jp